

「ずぼら」で行こう！

この数年、目が疲れるからとほとんど読書しなかつた私か、「ずぼら」人生論という本に出会い、読書熱が復活。本屋さんに足を運ぶ、日がふえました。

人間は不完全

この本の著者は、ひろさちやという人で、大坂生まれの印度哲学の先生です。人間は完全ではないということも教えてくれるのが宗教で、人間は迷いに迷っている凡夫、不完全な存在で、どうあかいても神や仏ではないのだから、完全な存在にはなれない、まづその事を自覚し、不完全でいいじゃないか。いまのままでもここが悪いと言っています。

欠点は個性

人間は欠点だらけだけれど、その欠点はその人の個性であり、個性を伸ばして人生を幸福に生きるこそ、まづぼらに生かす人と言えます。スポーツ選手にしても、この欠点を個性と自覚し、大事にした人が一流の選手になっています。

あきらめる

窮地に立ちたり、逆境に置かれたりすると、なんともかしようとおあきらめりですか。どこまでもあきらめり、あきらめ続けていたが、どんどん深みにはまるだけです。そんな時には、いったん、あきらめる、そしてその視点からもうごとを見ると、様相はガラリと変わる。あきらめの視点を持っていれば、腹が据わる。あきらめると、どうにもならぬように見える状況や局面

アホの物差し

たとえば、子どもクラストウと敵な平均点以下であれば、値打ちがないと思われは世間の物差しで、たとえ百点でも何人も百点の人がいれば同じように値打ちがないとする物差しであり、子どもが一所けんめいや、とどってきた点数は、たとえの点であろうと、宝物だと受けとめる、それがアホの物差しです。アホの物差しで、ものごとを見ようとする姿勢も持ちましょう。

老、病、死

人間にとつて大事な仕事は、老いること、病気をすること、そして死ぬこと。生まれ暮らした瞬間から、一日、刻一刻と危いといふから、老いる仕事を一所けんめいやれば、死ぬことは、とびきりの大仕事です。

人生者の生き方

色々なトラブルに会って、も、放っておく、悩みを落ち込んで、苦勞のさなかにいる自分を、そのままに生きる、どうにかしようなんてことは考えずに、あきらまのまに生きる生き方、人生者としての生き方です。

まじめゆえの悩み

まじめな人はとかく世間の常識や道徳や周囲の人の期待などにぶりまわされ、悩みはつきません。ノイローゼになったり、過勞死につながる生き方です。た、た一度しかない人生だから、もっと自由でおおらかに、のんび

社会の競争

日本人には、資本主義社会に競争は必要だが、それは悪だという認識が欠けて

なる生き方

生活のために仕事をこなすだけではない、という面はあるけれども、まぢか、もかんばらない、常にほろぼろにやる、がんばればがんばるほど、奴隷として